

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ

Ciné-là

シネラ・ニュース
November.2001 No.64

特別企画

台湾映画祭



『光陰的故事』 イラスト: 花野孝史

特別企画

出光真子作品展「私がつくる。私をつくる。」

特別企画

ぴあフィルムフェスティバルin福岡

11

自主製作映画の日本最大のコンペティションである「ぴあフィルムフェスティバル」から、コンペティション入選作品と、特別上映として今年「ピアニスト」でカンヌ映画祭グランプリを受賞したオーストリアの巨匠ミハエル・ハネケを特集。

主催：ぴあフィルムフェスティバル福岡実行委員会
福岡市総合図書館 PFFパートナーズ
協力：シティ情報ふくおか

会期：22日(木)～25日(日)
観覧料：1,000円(当日1回券)
800円(前売り1回券)
3,500円(5回券・前売りのみ・限定100枚)

※定員制、各回入替制。
※高齢者割引、障害者割引はありません。
※前売り券はチケットぴあ(TEL:092-708-9999)にて発売。

～18日(日)
※休館日・休映日を除く
大人)
大学生・高校生)
中学生・小学生)

す。前売り券はありません。
ち、及び福岡市在住の65
帳の提示が必要です。)

(土)14:00～15:20

30分前。入場は有料制で、
茶房)の観覧料に含まれます。

れ。パン
5年に映
年「浮草
画監督
第9回東
ヤング
スティ
ー賞を
青春の
第10回東京国際映画祭で主
得。98年にはNHK製作に
リチュード)を監督。99年「天
路。2001年「横溝柳子の女」
画監督賞を受賞。またチ
ン監督による「熱帯魚」(
扮役として出演している。

ququet 8日(木)19:00
17日(土)15:00

年ウェイトンはゲイで、恋人
中。ところが台湾の両親は彼
でいた。しかたなくウェイト
なく
リを
来し
一作と



日本語・英語字幕付き

ン・チャオ

カラー/108分/台湾＝アメリカ

iness 10日(土)15:30
15日(木)19:00

一角にある天馬茶房に集う若
ユウと音楽家アジンを中心に
本作は228事件の発端となっ
開た
描い
る。
型を
の姿
かれ



日本語・英語字幕付き

ン・チャオ

カラー/93分/台湾

ある女の一生

あるおんなのいっしょう

Kuei-Mei, A Woman 7日(水)19:00
14日(水)14:00

クイメイは子連れのホーと結婚するが、ギャンブル好きのホーは失職、日本に出稼ぎに出てしまう。貧しいながらも懸命に子供を育てる主人公クイメイの半生が、静かな映像で綴られる作品。彼女の歩みに戦後の台湾の歴史がたぶつてくる。金馬獎最優秀作品賞を受賞した傑作。



日本語・英語字幕付き

監督：チャン・イー
出演：ヤン・ホエイシャン

1985年/35ミリ/カラー/117分/台湾

さよなら・再見

さよなら・ツァイチエン

Sayonara Good bye 8日(木)14:00
18日(日)11:00

台北の商社で働く黄は、日本語ができることから、日本からやってくる会社の取引先の接待を命じられる。黄は日本人達を故郷の温泉につれていくのだが…。大和屋笠が製作顧問をつとめ、日本人役は実際に日本人が演じている。日本と台湾の関係を皮肉をこめて描いた問題作である。



日本語字幕付き

監督：イエ・チンション
出演：リウ・ロンカイ

1986年/35ミリ/カラー/100分/台湾

愛情萬歳

あいじようばんざい

Vive L'amour 9日(金)19:00
18日(日)15:00

セールスマンのシャオカンは、偶然あるマンションの部屋の鍵を手に入れる。以来シャオカンはしばしば留守の部屋に忍び込み、そこで時を過ごすのだった。当時弱冠37歳のツァイ・ミンリャン監督はこの作品で94年ヴェネチア映画祭グランプリを獲得、台湾映画の新しい才能として高く評価された。



日本語字幕付き

監督：ツァイ・ミンリャン
出演：ヤン・クイメイ

1994年/35ミリ/カラー/117分/台湾

最愛の夏

さいあいのなつ

Darkness & Light 10日(土)11:00
16日(金)14:00

17才の少女・カンイは目の見えない両親、知的障害を持つ弟とキールンで暮らしている。ある夏の日、近所にアピンという青年が越してくる。カンイとアピンはお互い好きを持つ。「悲情城市」で助監督を務めたチャン・ツォーチー監督の出世作で、99年東京国際映画祭グランプリを獲得している。



日本語字幕付き

監督：チャン・ツォーチー
出演：リー・カンイ

1999年/35ミリ/カラー/102分/台湾

22日

「短編小説」

監督：日置珠子(16ミリ/21分)
PFFアワード審査員特別賞
一人の女性作家が自分の書いた3本の短編小説について語り出す。自分の母の話、小学校時代の同級生の話、大学時代の後輩の話。それぞれに愛しい女性達のエピソード。

「自転車とハイヒール」

監督：深川栄洋(16ミリ/60分)
典彦は気の弱い何の取り柄もないサラリーマン。ある日は小学校時代の同級生・博之と再会する。博之と彼の恋人との関係を見て、典彦は次第に変わり始める。

14:00

16:30

「僕ら太陽を真ん中に」

監督：竹内義(ビデオ/15分)
PFFアワードエンターテイメント賞
あるアパートの一室に彼らは突然生まれた。元気がいいに動き回る彼らは愛し合い、空を飛ぶのだった。かわいいキャラクターによる粘土アニメーション。

「STILL LIFE」

監督：藤川佳三(ビデオ/71分)
ある団地に住む少女と中年男。男は乱暴目的で少女に近づき、少女は体を売って日々を過ごす。深い虚無感と絶望が二人を結びつけ、そして融んでいく。

19:00

「R」

監督：斎藤正太郎
手嶋林太郎(ビデオ/6分)
主人公の男は最近、時間が狂っているのを感じる。人々の動きは流れたり止まったり不思議な光景が展開していく。「現実の認識」をテーマとした作品。

「犬猫」

監督：井口奈己(8ミリ/84分)
PFFアワード企画賞
ずっとヨココは中学校時代からの腐れ縁の仲。いつも同じ男を好きになり、いつもすがすがしく。女性監督ならではの視点で描かれた、不器用な二人の切ない友情。

23日

「サボテン」

監督：吉川久岳(ビデオ/50分)
恋人が自殺して以来、生きる意味を失ったサトシ。サトシの友人のヒデまでが、仕事を苦に自殺する。近未来の日本を舞台として、出口の見えない閉塞感と希望が交差する。

「星ノくん・夢ノくん」

監督：荻上直子(ビデオ/68分)
PFFアワード音楽賞
修学旅行で地球にやってきた星ノ君と夢ノ君は、帰りの汽車に乗り遅れる。故郷の星と交信できる公園を探すため、出会った女性に場所を聞くのだが…。

11:00

「虫たち」

監督：ケ・マリモ(増田庄吾、若泉太郎、横川兄弟)(ビデオ/47分)
PFFアワード観客賞
狭い十文字の部屋に居候するのは先輩の鳥貝と野良猫。近所を散歩する二人と一匹は、彼ら以上の奇人変人と出会い、いつしか散歩は逃走へと変わっていく。

「21世紀の王様」

監督：荻原義衛(ビデオ/48分)
PFFアワード審査員特別賞
21世紀、ピカソキングの国とマチスキングの国は日々争いあっていた。シュールな絵柄をコラージュしたようなアニメーション。その奔放さが気持ちよい。

14:00

16:30

「カフカの城(仮)」

監督：ミハエル・ハネケ
(1997年/35ミリ/カラー/125分/オーストリア/日本語字幕付き)
カフカの「城」の映像化に挑んだ作品。自分を雇ったはずの城に到達しようとして出来ない測量技師Kの悪夢が、原作にそったリアリズムで再現されていく。原作を読むように見ることが出来る作品。

24日

「はながいたらババがくる」

監督：鈴木余位(8ミリ/27分)
PFFアワード審査員特別賞
足が不自由なスガマは、やけどの痕が残る少女・京に思いを寄せていた。詩のようなセリフ、軽やかな空気のように自由な映像は、見る者に理解よりも感応を求める。

「TUTU」

監督：松下ユリア(ビデオ/61分)
小さな南の島。二人の少女がかりとどどと、まだ外の世界に出たことがない。二人はハンサムな紳士が迎えに来ることを夢見て、手紙を海に流す。そしてある日返事が来る。

11:00

「71フラグメンツ(仮)」

監督：ミハエル・ハネケ
(1994年/35ミリ/カラー/95分/オーストリア/日本語字幕付き)
93年ウィーンで19歳の大学生が銃を乱射して3人を殺害、自らも自殺する。この映画では加害者と被害者を同時に描きながら事件へと至る過程を描いていく。現代オーストリア社会の肖像画という作品。



「モル」

14:00

「ベニーズビデオ(仮)」

監督：ミハエル・ハネケ
(1992年/35ミリ/カラー/105分/オーストリア/日本語字幕付き)
両親に放任され、何ん自由なく暮らす少年ベニー。彼の趣味はビデオを撮影し、鑑賞すること。ある日両親が留守の時、彼は知り合った少女を部屋に誘う。そして幼い恋愛感情が、惨劇へと変貌していく。



「Pellet」

「僕ら太陽を真ん中に」

25日

「Pellet」

監督：小林和史(ビデオ/17分)
PFFアワード準グランプリ・技術賞
留学から帰国した主人公の女性は、彼が果を飼っており、その果と愛し合っていることを知る。そして嫉妬のため彼を殺してしまう。

「さみしさの彼方」

～紀子とトモソウ～
監督：山浦和久(ビデオ/67分)
紀子は銀座のクラブのホステス。ある日彼女は幼なじみのトモソウと出会い同棲を始める。美男美女ではない二人の、平凡だが赤裸々な恋愛は、多くの共感を呼び起こす。

11:00

「夜はパラダイスへ行く」

監督：友久陽志(ビデオ/34分)
建築家の妻の四人は、プレゼンテーションのため徹夜で資料を作っていた。ところがヨウウが眠ってしまい、残された三人も脱線始める。

「モル」

監督：タナダ・ユキ(ビデオ/76分)

PFFアワードグランプリ

「プリリアント賞」
25歳のゆかりは女優を目指していた。しかしある日生理になると発熱し、支離滅裂な行動をとるようになる。監督自身が主人公を演じ、魅力的なヒロインを創造する。

14:00

「セブンスコンチネン(仮)」

監督：ミハエル・ハネケ
(1989年/35ミリ/カラー/111分/オーストリア/日本語字幕付き)
両親と一人の娘、小市民一家の3年間を描いた作品で、ミハエル・ハネケ監督の最高傑作と言われる作品。淡々とした日常生活の描写が、悲劇へと転換していく。現代を生きる我々すべての人間のための物語である。



「セブンスコンチネン」

ハリウッド映画の方が好きですか？

近

頃はどこの国でもハリウッド映画ばかりが幅を利かせているようである。2月に行った台北では、台湾の映画は1作品が1映画館で上映されているのみで、あとは殆んどがハリウッド映画だった。しかもこの台湾映画の観客は日本から来た我々だけという状況だった。

余談だが、台湾での日本のアダルトビデオやテレビドラマの人気はものすごいもので、飯島愛の「プラトニック・セックス」のサイン会に来た人の数の方が、中国人で初めてノーベル賞を受賞した作家のサイン会を上回ったり、反町隆史と松嶋奈々子の結婚が話題になったりしていた。

さて、ハリウッド映画は好きですか？と聞かれたら、私は「近頃、ハリウッド映画よりアジア映画の方が好きだ。」と答える。特に「初恋のきた道」を見たときの感動は言い尽くせない。久しぶりに「映画を見て良かった」と思った。そして、それ以後「花様年華」、「わすれな草」、「山の郵便配達」、「ふたりの人魚」、「夏至」、そしてアジアフォーカス・福岡映画祭の作品など、アジア映画を立て続けに見た。

なぜこうなったのだろうと思っていたところ、シネラで6月に上映した「地中海映画祭」のパンフレットのなかに「なくしたものを見つける

ために」という題で作家の池澤夏樹氏が書いていた文章を見つけた。なるほどと思ったので、数ヶ所引用してみる。

“大衆文学の原理は二つある。一つは「我を忘れる」、もう一つは「身につまされる」。(中略)これは映画にもそのまま通用する優れた原理だ。”

“「身につまされる」というのは、他人の人生の中に自分と共通するものを見つけだして、そこから生まれる共感ないし同情を味わうことである。”

“しかし、最近の映画事情は、(中略)全世界的にハリウッドの一人勝ちで、これがすべて「我を忘れる」の路線。それも特撮を多用して、とんでもない状況を作り、そこからとんでもない方法で抜け出すというパターンばかり。”

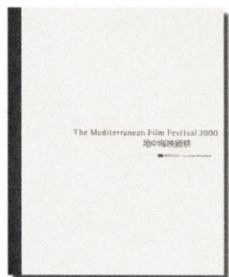
“映画から生活感がなくなった。(中略)言い換えれば、すべてがヴァーチャルになってしまった。本当を言うと、ヴァーチャルになったのは映画ではない。僕たちの生活そのものが実に薄っぺらに、軽く、嘘っぽくなったのだ。映画はそれを反映しているにすぎない。”

“この「地中海映画祭」で上映される映画の内容紹介を見ていて、なんとも懐かしい気持ちになった。そう、人生はこんな風だったのだと思った。”

引用が長くなったが、これを読んだとき、なぜ自分がアジア映画の方を近頃好きになっているかが判ったような気がした。

あなたはハリウッド映画の方が好きですか？

映像資料課 柳田 実



「地中海映画祭」パンフレット

11月

上映スケジュール

1 木	出光真子作品展	15:00 プログラムE	19:00 プログラムA	
2 金		13:00 プログラムD	16:00 プログラムC	19:00 プログラムB
3 土祝		11:00 プログラムB	14:00 プログラムC	17:00 プログラムD
4 日		11:00 プログラムA	13:30 プログラムE+作家トーク	
5 月		休 館 日		
6 火		休 映 日		
7 水	台	14:00 光陰的故事	19:00 ある女の一生	
8 木		14:00 さよなら・再見	19:00 ウェディング・バンケット	
9 金		14:00 超級大国民	19:00 愛情萬歳	
10 土		11:00 最愛の夏	14:00 特別講演	15:30 天馬茶房
11 日	映	11:00 恐怖分子	15:00 悲情城市	
12 月		休 館 日		
13 火		休 映 日		
14 水		14:00 ある女の一生	19:00 恐怖分子	
15 木	画	14:00 悲情城市	19:00 天馬茶房	
16 金		14:00 最愛の夏	19:00 光陰的故事	
17 土		11:00 超級大国民	15:00 ウェディング・バンケット	
18 日		11:00 さよなら・再見	15:00 愛情萬歳	
19 月		休 館 日		
20 火		休 映 日		
21 水		休 映 日		
22 木	びあ イルラ マテ イタル	14:00 短編小説、他	16:30 僕ら太陽を真中に、他	19:00 R、他
23 金祝		11:00 サボテン、他	14:00 虫たち、他	16:30 カフカの城
24 土		11:00 はながないたらババがくる、他	14:00 71フラグメンツ	16:30 ベニーズビデオ
25 日		11:00 Pellet、他	14:00 彼はパラダイスへ行く、他	16:30 セブンスコンチネント
26 月		休 館 日		
27 火		休 映 日		
28 水		休 映 日		
29 木		休 映 日		
30 金		月 末 休 館 日		

お知らせ

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年12月号～平成14年3月号までの郵便切手(90円×4ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄) ※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

12月5日(水)～22日(土)

特別企画

「共に生きる社会のために」

差別を無くして、みんなで共生するための映画特集。

「しいのみ学園」「砂の器」「遥かなる甲子園」「安心して老いるために」「あの夏、いちばん静かな海。」
「見えない壁を越えて」「アイ・ラブ・ユー」「チチカット・フォーリーズ」「老年萬歳」「視覚障害」
「音のない世界で」「女人、四十。」「ピヨンドサイレンス」「悲哀」

12月23日(日)・24日(月・休)

特別企画

クリスマスファミリー企画「ニック・パーク特集」

「チキンラン」「ウォレスとグルミット」+「ウォレスとグルミット・危機一髪!!」



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌 米国の同時多発テロ問題に端を発して世界各地で起きている民族間の紛争が問題になっている。民族紛争の背景には、宗教的問題や経済的な問題が大きな要因となっているが、この問題を考えるときにはその民族の文化的所産や歴史的事実、宗教的な考え方、民族固有の価値観などを理解しないとなかなか議論できるものではない。ところで、今月の「台湾映画祭」では台湾ニューウェーブ以降の作品を集結する。台湾という地域が世界の荒波に翻弄されながらも、逞しく生きていく人々が実に見事に描かれている。台湾を取り巻く様々な問題を考えるときにこれらの映画を観るだけでも非常に参考になるので、是非とも市民の皆さんにご覧いただきたい。(H.I.)

280 古紙配合率80%再生紙を使用しています。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

デザインワークス/VOW OFFICE co.,ltd.

印刷/(株)ドミックスコーポレーション